

編集後記

向夏の候、会員の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年の後半から、ようやく新型コロナ感染が終息しつつあり、2023年に入って、3年ほど続いていた様々な行動制限が緩和され、各々の活動が徐々に回復に向かっております。

皆様方のご支援のお陰をもちまして、2023年に『日本學刊』の第二十六号を刊行できましたことに衷心より感謝を申し上げます。

とりわけ香港だけでなく、中国、台湾よりご投稿くださいました方々に深く謝意を表したいと思っております。ご投稿はそれぞれの教育現場における日本語教育の研究分析をはじめ、いずれも啓発的で参考になる内容でしたし、明治期の日本語の文字・語彙の表現特徴の研究も非常に興味深いものでした。ご投稿、誠にありがとうございました。

また、この場をお借りして、第二十六号の編集委員と査読を務めてくださいました皆様方にも御礼を申し上げます。今後とも引き続きよろしく願いいたします。

最後になりますが、異なる国と異文化間の活発な交流を通して世界の人々の相互理解が深まり、2023年が平和で皆様方にとっても穏やかで幸せな年でありますよう、心から祈願いたしております。

今後も、『日本學刊』が皆様方に交流の場として貢献できれば幸いと存じます。

皆様方のご投稿を心からお待ち申し上げます。

日本学刊編集委員会委員長
梁 安玉
2023年6月吉日